

俳句 大津俳句会

菊はじめ夜は枯れゆくものばかり

井芹眞一郎

気分まで少しゆとりの日脚伸ぶ

相原 朋子

冬銀河家路着くまで一人じめ

一上日登美

紅梅の我先と咲く一枝や

大塚喜久子

野の光あつめて畦あぜの犬ふぐり

岡崎 浩子

雪深き北国思ふ昨日今日

香月のり子

白梅や空の青さに浮き立ちぬ

佐賀 久子

葉隠れに息吹いぶくみどりや露つゆの臺たい

佐澤 俊子

床の間の梅一輪に満たされし

中嶋 清美

大津俳句会は今月号で終了とさせていただきます。
長い間御愛読いただきまして
本当にありがとうございます。

俳句 つのはな句会

君がいて私が居る初明かり

塚本 洋子

若菜摘む母がきているかも知れぬ

柴田しのぶ

Aーのまた寝めちぎる立子の忌

村田 健二

手に負えぬ山火事 地球に火種多し

志賀 孝子

白いブーツは白雪姫の忘れもの

田上 公代

言の葉が芽吹いて明日はスキップで

上杉 波

寒椿新たな戦火載る紙面

矢嶋 道子

ヒヤシンスと夢を買います植木市

梅木トキエ

短歌 大津短歌会・野づかさ

指導 阿木津 英

三泊の布団たたみて部屋ひろし湘南ナン
バー去りたるのちに

坂本 果子

山あいにごんどやの火の燃えさかる燻くすむ煙
を巻き上げながら

鞍 岳志

札幌の日々を思えば神さまのままごとめい
て熊本くまもとの雪

山本 泰子

ことごとと甘く炊きたる黒豆を孫たちと食
ぶ正月の膳

高村 貴子

冬晴れの阿蘇のお山はラクダ色古代より
なおマグマを噴きて

吉田 良子

盤上の駒見据えたる竜王は読みを深めるや
額に汗す

本田 咲

久木野郷秋の光の明るくて灌田に水流る
音す

田中 玲子

日向にて本をひらけどすぐ眠るページめ
くるも二度三度なり

豊岡ミツル

今も尚ラジオ体操続けてる山中仲弥に心
うごめく

小平 善行

吾亦紅探しあぐねて草に座す阿蘇の原野の
風に吹かれて

吉永 恵子